

関西医大で
スーパードクター
を目指そう

卒研センター NEWS

研修Outline

救急医学科専門研修プログラム

大阪府下救急医療最後の砦として、
先駆的診断技術の開発、システム構築、
DMAT活動など、幅広い臨床・研究が特徴



地域住民の生命を背負って
立つ、救急医学をリードする
人材へ——

救急医学講座
鎌方 安行 教授

高度医療、病院前診療、地域医療の3領域をバランス良く研修できるのが当科の特徴。外傷治療、集中治療、病院前体制の調整と制御、ER運用、災害医療など、エキスパートの道を視野に入れながら学問的研究活動も行え、指導力の習得も可能です。研修中は、患者さんの救命・社会復帰を可能とする基礎的技術や、素早い診断力を身につけてもらいます。さらに外科や脳外科、整形外科などのサブスペシャリティや、災害医療技術などの学修も支援しています。

専門研修修了後に得られる資格

日本救急医学会専門医

専門研修後の進路

専門医取得後は本学附属病院ばかりでなく、大阪大学や大阪市立大学、順天堂大学など全国11大学の救急医学教室に同門教授が在籍。大阪府立急性期・総合医療センター、大阪警察病院、兵庫県立西宮病院など全国14の救命救急センター、6カ所のドクターヘリ運用施設、5カ所の大型ERが関連病院となっています。これらの施設の多彩なポストで、臨床・研究の研鑽を積むことができます。「地域の救急医療統括・調整業務」が、独立した救急科専門医の職能として厚労省から求められており、一部同門大学では救急施設と地域を結ぶ組織的訪問診療施設設立の試行も行っています。

初期研修で推奨されるローテーション診療科

消化器外科、脳外科、整形外科、消化器内科、循環器内科、神経内科、麻酔科、形成外科 など

関西医科大学大学院は、社会人に優しくなりました

関西医科大学大学院の長期履修コース(修業年限5年)はこれまで、限定された臨床医向けの制度でしたが、カリキュラムを大幅に改定。勤務で忙しい先生方でも長期スパンで博士号を取得できる大学院に生まれ変わりました。

診療しながらでも進学可能!

病院勤務医、開業医の皆さんは社会人入試を経て、社会人学生として進学。通常コース(修業年限4年)、長期履修コース(同5年)、がんプロフェッショナルコース(同4年)のいずれかを自由に選択可能です。

研究初体験を積極サポート!

従来の大学院教育を、平成28年度から大幅にカリキュラム改定。本学的な研究が初めての先生のために、基本的な知識と手法を学んでもらうための講義を沢山準備しています。また、DVD受講も可能になりました!

計画的な学位取得を支援!

修業年限内(通常・がんプロコース4年、長期履修コース5年)に学位を取得するため毎年度末に自己評価を実施。その結果を指導教員と共有することで研究の進捗を管理でき、次年度の研究計画の立案に役立てます。

医学部卒業後、どのタイミングで大学院に入学するかは皆さんの自由です。専門医と博士号の取得を目指す皆さんの希望に、大学院は応えます!!

平成30年度大学院入学試験の概要は、右記Webサイトをご覧ください。問合せ先までご連絡ください。

大学院概要 <http://www.kmu.ac.jp/juk/gsreb.html>
お問い合わせ 大学事務部 教務課大学院係
TEL 内線2223、2225 E-MAIL gakumu@hirakata.kmu.ac.jp

読者の声
ここでは読者の声をご紹介します!

あなたの「声」を掲載しませんか?

卒研ニュースでは読者のご意見・ご感想を募集しています。気になることや面白いこと、施設を利用したご感想やご要望などさまざまな読者の「声」をお待ちしています。

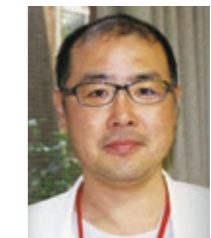
応募先 sotugori@hirakata.kmu.ac.jp



呼吸器外科 専門研修プログラム

原発性肺がんを含む悪性胸部疾患を
メインに、他科とも広く連携。
開胸・腹腔鏡問わず豊富な症例で効率良く
研修し、最短での専門医取得をサポート!

日本を超えて世界へ羽ばたく 呼吸器外科医を目指そう!



呼吸器外科学講座
村川 知弘 教授



当科では平成27年に計258例の手術を行い、129例を数えた原発性肺がんや転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自然気胸を含む嚢胞性肺疾患など、開胸手術・腹腔鏡手術のどちらも数多く経験することが可能です。また、当科所属の外科指導医2名、胸部外科指導医1名、呼吸器外科専門医5名が指導にあたっています。研究面でも「進行期肺癌に対する術前補助療法の有効性の検討」や「吸収性素材を用いた気管ステントに関する基礎的研究」など、様々なテーマで展開。さらに、海外留学を希望する医師は、当科の客員教授Keshavjee胸部外科教授のもと、カナダ・トロント大学への臨床・研究留学が可能です。

専門研修修了後に得られる資格

日本外科学会外科専門医、
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医ほか

研修後の進路

本学附属医療機関、または関連病院での呼吸器外科研修・一般外科研修
大学院進学
リサーチ及び臨床研究(海外留学も可能)
大学内外で手術研修を行いながら外科専門医、呼吸器外科専門医、気管支鏡専門医、呼吸器専門医、がん治療認定医など呼吸器系専門医を目指す。

研修のために参加する学会

日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会など

初期研修で推奨されるローテーション診療科

呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、麻酔科、呼吸器内科、救急医学科、病理科など

呼吸器外科サマースクール2016



日本全国に仲間が待っています

早い時期から教授の指導のもと、手術を経験することが出来ます

呼吸器外科が扱う疾患は肺癌、気胸、縦隔腫瘍、胸部外傷など多岐にわたります。術式も近年進歩しており、私たちはその多くを胸腔鏡を用いた低侵襲手術で行っています。手術数は年間約300例で年々増加しています。医局員は少ないですが、その十分な経験を積むことが出来ます。早い時期から教授の指導のもと、手術を経験することが出来ます。専門医に必要な条件は確実に満たすことが出来ます。また研究面でも指導して頂けるので、学位も取得することが出来ます。また、先代から世界的に有名なトロント大学への留

学のパイプがあり、留学をして世界最先端の技術に触れることが出来ます。

私は患者さんが元気に笑顔で帰っていく姿を見て呼吸器外科に決めました。また当科は手術が大変な時もありますが、緊急手術は少なく、時間を計算することが出来るので、仕事とプライベートを充実させることが出来ます。その為、全国的には女性呼吸器外科医も多いです。やりがいのある科で私たちと楽しく仕事をしませんか?興味がある方は是非気軽に一度遊びに来て下さい。



呼吸器外科学講座
10年目助教
谷口 洋平 医師

第三内科（消化器肝臓内科）専門研修プログラム

あらゆる消化器領域で専門医を目指し、疾患の診断・治療法の修得から専門医、指導医の資格や学位取得までを支援



内視鏡検査技術を確実に、素早く身につける強化カリキュラムも構築

内科学第三講座
岡崎 和一 教授

当科はダブルバルーン内視鏡を用いた胃切除後の胆膵内視鏡を西日本で初めて導入。500例以上の症例数を誇ります。また、附属病院内視鏡センターで各種内視鏡検査や緊急内視鏡検査を集中的に修練する。強化月間を用意。総合医療センターでは肝がん局所治療のエキスパートの下、検査・治療ともにトップクラスの研修を行っています。研究では主に“癌と炎症”をテーマとし、積極的に取り組んでいます。

専門研修修了後に得られる資格

日本内科学会内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化管学会認定胃腸専門医、日本超音波医学会超音波専門医（消化器領域）、日本がん専門医機構の専門医資格 など

研修のために参加する学会

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本消化管学会、日本超音波医学会 など

研修後の進路

大学院入学、本学附属医療機関または関連病院での専門性を高める研修、大学のスーパードクター養成制度による臨床留学、日本がん治療認定医・消化器病専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・胃腸専門医・超音波専門医などを目指す など

初期研修で推奨されるローテート診療科

各内科、消化器外科、救急救命科 など



研修Outline

リハビリテーション科専門研修プログラム

かつてない高齢社会で重要度が高まる日本で、小児～高齢者、急性期～生活期まで活躍できる、スペシャリストを輩出



社会から求められるリハビリテーション医療のスペシャリストへ！

リハビリテーション科
長谷 公隆 診療教授

当科は、日本リハビリテーション医学会が定める8診療領域の、急性期・回復期・生活期に求められる診療スキルを習得できるプログラムを構築。脳機能解析や嚥下・呼吸機能評価に基づく治療も経験可能です。また、豊能・京都・奈良・神戸などでの研修、訪問医療を含む在宅医療も経験できます。さらに、リハビリロボットや経頭蓋直流電気刺激療法、ボツリヌス毒素を用いた痙攣治療など、先進的なリハビリテーション医療の臨床研究も行っています。

専門研修修了後に得られる資格

日本リハビリテーション医学会専門医 など

研修のために参加する学会

日本リハビリテーション医学会学術集会、近畿地方会、日本臨床神経生理学会、日本脊髄障害医学会、日本運動療法学会、日本義肢装具学会 など

専門研修プログラムでの症例数

| | 外来症例数 | 入院症例数 |
|---------------|-----------|---------|
| 拠点施設での症例数: | 約200例/月 | |
| 関連施設を含めた総症例数: | 約1,500例/月 | 約500例/月 |

専門研修後の進路

- 大学院入学（整形外科学講座）
- 関西医大附属病院または関連研修施設（指導医）
- 関連研修施設以外のリハビリテーション病院あるいは施設（指導医）
- 関連学会専門医・認定医を目指す。

初期研修で推奨されるローテート診療科

整形外科、神経内科、脳神経外科、循環器内科、呼吸器内科、救急医学科 など



研修Outline

精神神経科専門研修プログラム

300万人を遥かに超える精神疾患患者さんのために、生物学的・社会的・心理的要因を総合的に考察する学問



医療の枠に収まりきらない世のため人のためになる崇高な職業——

精神神経科学講座
木下 利彦 教授

当科は、大阪～京都間にあることから多彩な患者さんが来院し、十分な臨床経験を積むことが可能です。さらに、それら豊富な症例に裏打ちされた基礎的臨床技術の習得だけでなく、外来診察陪席や検査補助、カンファレンス、勉強会や学会など、多彩な経験を有用。興味や特性に応じてスタイルを確立できます。また、臨床薬理・ゲノム薬理やニューロイメージングなど、国内でも指折りの研究も行っています。

専門研修修了後に得られる資格

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本臨床精神神経薬理学会専門医・指導医、一般病院連携精神医学専門医・指導医、日本サイコソコロジー学会認定登録精神腫瘍医、日本老年精神医学会専門医・指導医、日本児童青年精神医学会認定医、日本性機能学会専門医、本臨床神経生理学学会脳波分野認定医、日本認知症学会専門医・指導医 など

専門研修プログラムでの症例数

| | 外来症例数 | 入院症例数 |
|---------------|--------|-------|
| 拠点施設での症例数: | 3,128 | 184 |
| 関連施設を含めた総症例数: | 19,999 | 4,327 |

研修後の進路

大学院への進学や関連の一般精神科病院、救命救急科への出向などがあります。その他、教育プログラム中期から海外留学、国内留学を積極的に進めています。

初期研修で推奨されるローテート診療科

神経内科、一般精神科病院、麻酔科、救命救急科 など



研修Outline

耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム

アレルギー性鼻炎、難聴・耳鳴・めまい・嚥下障害だけでなく、口腔咽頭・唾液腺・甲状腺腫瘍など、幅広い専門領域を学べます



現時点での最良の医療を提供する能力と習慣を身に付け、養う。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
岩井 大 教授

当科は伝統的に中耳臨床・内耳研究で多くの実績を残しており、側頭骨・頭蓋底も含んだ、内視鏡手術から頭蓋底手術まで多くの臨床経験が可能です。また、近年では鼻科学領域における進展もめざましく、ナビゲーション手術や慢性副鼻腔炎症例・再発症例に対する内視鏡下鼻内手術などを経験できます。さらに、頭頸部外科領域では頭頸部悪性腫瘍や重症感染症を扱っており、ほぼ毎週拡大切除術や再建手術を実施。3つの分野で豊富な症例から学べます。

専門研修修了後に得られる資格

日本耳鼻咽喉科学会専門医

専門研修修了後に目指せる資格

日本がん治療認定医、日本頭頸部外科学会頭頸部癌専門医、日本アレルギー学会認定専門医、日本気管食道科学会認定専門医、日本内分泌甲状腺外科学会専門医 など

専門研修プログラムでの症例数

| | 手術症例数 |
|---------------|--------|
| 拠点施設での症例数: | 1,655例 |
| 関連施設を含めた総症例数: | 4,995例 |

専門研修後の進路

- 大学院への進学
- 関連病院への出向
- 希望により国内外研究機関、臨床施設への留学
- 各種専門医取得資格を得るための大学及び関連病院における研修
- 大学病院スタッフ、関連病院スタッフ、及び開業など

初期研修で推奨されるローテート診療科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科、消化器外科、小児科 など



研修Outline